



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) N18W3 MS 新築工事	階数	地上12F
建設地	札幌市北区北18条西3丁目21-91	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	72 人
建物用途	飲食店集合住宅	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2021年2月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	417 m ²	評価の実施日	2020年3月24日
建築面積	220 m ²	作成者	秋庭
延床面積	2,074 m ²	確認日	
		確認者	

「配慮シート」に
外観パースを張り付けて下さい。

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	93%
③上記+②以外の	93%
④上記+	93%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.7

3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>白を基調とした、シンプルで華美にならない外壁の仕上で、周辺景観との調和に配慮した。</p>	<p>A 省エネルギー</p> <p>自動省エネ運転機能付き冷暖房機を採用し、省エネに配慮している。</p>
<p>B 省資源等</p> <p>乾式間仕切、吹付ウレタン等、比較的容易に分別できる資材を使用しており、資源に配慮している。</p>	<p>C 緑化</p> <p>戸数に対して十分な駐輪場を敷地内に計画し、周辺の交通負荷の抑制に配慮した。</p>
	<p>D 雪処理</p> <p>ロードヒーティングを敷地全体に敷設し、敷地外には雪を出さない様に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)
 (仮称)N18W3 MS 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境				0.40		-		3.1
1 音環境			2.9	0.15	3.0	1.00		2.9
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.49	3.0	0.50		
1.2 遮音			3.0	0.49	3.0	0.50		
1 開口部遮音性能			3.0	0.98	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能			3.0	0.02	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.20		
1.3 吸音			1.0	0.01		-		
2 温熱環境			2.6	0.35	3.0	1.00		2.8
2.1 室温制御			3.0	0.50	3.0	0.50		
1 室温			3.0	0.62	3.0	0.63		
2 外皮性能	省エネ		3.0	0.36	3.0	0.38		
3 ゾーン別制御性			3.0	0.02		-		
2.2 湿度制御			1.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境			3.0	0.25	3.0	1.00		3.0
3.1 昼光利用			3.0	0.34	3.0	0.30		
1 昼光率			3.0	0.57	3.0	0.50		
2 方位別開口				-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.43	3.0	0.20		
3.2 グレア対策			3.0	0.28	3.0	0.30		
1 昼光制御	省エネ		3.0	1.00	3.0	1.00		
2 映り込み対策				-		-		
3.3 照度			3.0	0.14	3.0	0.15		
3.4 照明制御			3.0	0.24	3.0	0.25		
4 空気質環境			3.5	0.25	3.7	1.00		3.7
4.1 発生源対策			4.0	0.59	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		接着材、塗装、建材等は全てF☆☆☆☆適合品とする	4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気			3.0	0.39	3.3	0.38		
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		居室面積の1/7以上の開放可能部分を各タイプとも有する		-	4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理			2.0	0.01		-		
1 CO ₂ の監視			3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御			1.0	0.50		-		

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	2.7
1 機能性			2.9	0.40	3.0	1.00	2.9
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	3.0	0.60	
1	広さ・収納性			-		-	
2	高度情報通信設備対応			-	3.0	1.00	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			2.9	0.30	3.0	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)		1.0	0.03	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画		3.0	0.97	3.0	0.50	
1.3 維持管理			3.0	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			2.6	0.30		-	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			1.0	0.20		-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		1.0	0.20		-	
3	電気設備		1.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		1.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			2.9	0.30	2.2	1.00	2.4
3.1 空間のゆとり			1.4	0.02	1.4	0.50	
1 階高のゆとり			1.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			2.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.02	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.97		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	緑化		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	2.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ		2.1	0.20		-	2.1
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.90	3.9	0.50		-	3.9
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	0.06		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価			3.0	0.94		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.4
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60		-	2.5
2.1 材料使用量の削減	省資源		3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源		3.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				2.7	0.20	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.70	-	-	
1	消火剤	省資源		2.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒	省資源		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮		省資源	住戸:BPIm=0.90、非住戸:BEIm=1.01	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止		省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 熱化 蓄熱処理		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		駐輪場台数確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 蓄処理		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	0.33	-	-	
2	振動			3.0	0.33	-	-	
3	悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要				BEE	0.8	BEEランク	B ⁻
建物名称	(仮称) N18W3 MS 新築工事						
建物用途	飲食店,集合住宅,						
延床面積	2,074.2	㎡					

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	
	緑化	
	雪処理	

3. 重点項目のCASBEEスコア							
A 省エネルギー (最高点 23.5 最低点 7.3)				合計		15.2点 /23.5点	
Q1 温熱環境	スコア	0.8	/1.3	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	1.7	/4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.3	/2.2	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2	/2.0
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	7.8	/10.0
				LR1 効率的運用	スコア	2.4	/4.0
B 省資源等 (最高点 23.6 最低点 7.6)				合計		12.4点 /23.6点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6	/1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.5	/9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9	/2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.1	/1.8
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.2	/5.0
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.1	/4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)				合計		6.1点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.8	/4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	/2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	2.4	/6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9	/2.3				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計		1.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	/1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	/2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数
 ■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数